

なかつた関東労働組合會議を特に野田爭議應援のために開催したのは間接的から直接的に進んだと云ひ得るに十分であらう。他の労働組合が直接的、積極的應援の態度に出ようとしても爭議團幹部否日本労働總同盟の主義と方針と名譽とが受け入れなかつた點もあるであらう。この間の事情は後記の日本労働組合同盟の一文がよく物語つてゐる。積極的消極的或は直接間接の差はあつてもこの野田爭議は全労働階級の關心事であり、全労働組合の大なる問題であつた。左に各組合のまつた態度を見よう。

一、関東労働組合會議

関東労働組合會議は野田爭議應援のために左の如く三回に亘つて開催された。

第一回會議

- 一、日 時 昭和三年一月十二日午後七時
- 一、場 所 東京市麹町區飯田町二丁目中山ビル内東京市電自治會本部
- 一、協議事項 野田爭議應援の件
- 二、出席組合並に人員 四十二名
- 統一運動同盟、市電自治會、總聯合關東地方聯合會、日本労働總同盟、日本労働組合同盟、日本労働組合評議會、東京市従業員組合、東京印刷工組合、蒲田勞友會、自由労働同盟、關東電氣労働組合、純労働者組合、俸給生活者組合、在日本朝鮮労働總同盟、關東消費組合聯盟
- 開會後約五分にて解散を命ぜられた。

第二回會議

- 一、日 時 昭和三年一月二十一日
- 一、協議事項
- イ、應援資金の募集
- ロ、決議文の發表
- ハ、飯甲萬のホイコット
- ニ、爭議應援演說會の開催並に關士の派遣

第三回會議

- 日 時 昭和三年一月二十八日
- 協議事項
- イ、野田に二月二日應援關士を派遣すること
- ロ、二月七日應援大演說會開催
- 關東労働組合會議代表野田訪問
- 二月二日日本労働組合評議會渡邊氏、東京市従業員組合小野氏、蒲田勞友會石田進春氏、東京市電自治會北田一耶氏等爭議團を訪問して激励的メッセーヤを贈つた。

野田爭議應援大演說會

- 日 時 昭和三年二月七日午後六時半
- 場 所 東京市神田區明治會館